

内谷市長の

ゆるやかコラム

「民間の力を活用し、 魅力あるまちづくりを」



8月、全国的に大雨による被害が発生いたしました。本市でも3年前に豪雨災害が発生しましたが、最上川・野川水系に位置する本市においては、防災体制の強化は特に取り組むべき課題となっております。

そのような中先日、NTT東日本、NTTイードローンテクノロジ^{ネイ}、NAV^{バー}ERCloud^{クラウド}（韓国）、韓国水資源公社（韓国）、長井市の5者で、「デジタルツイン及びドローンを活用した地域防災強^{きょうじん}靱化の相互協力に関する連携協定」を締結いたしました。この協定は5者の強みを生かし、デジタル技術を活用した災害に強いまちの実現を目指すものです。「デジタルツイン」とは、デジタル空間に現実空間を再現し、高度なシミュレーションや分析ができる技術のことで、ドローンによる空撮画像から市のデジタルツインを作成し、気象や河川等の情報を反映することによって、被害の予測や状況の把握が可能になります。この技術によって、災害発生前の適切な防災対策や、災害発生時の早めの避難誘導等への活用が期待できます。この取り組みは全国でも先進的な事例

です。デジタル技術を活用し、市民の皆様^{みなさん}の命と財産を守り、誰も取り残すことのないまちの実現を目指すとともに、一つの自治体のモデルとして全国に広めていければと思っております。

8月18日には、長井工業高校、長井商工会議所と「山形県立長井工業高等学校における県外生徒の受入れ促進に関する協定」を締結いたしました。この協定は、県外から長井工業高校への入学希望者の受入れを促進し、人材育成と市内での就職・定住を目指すものです。今後、東京等での学校説明会など、来年度からの受け入れへ向けた活動が始まります。地域を盛り上げていく取り組みとして、3者で協力し、ものづくりのまち長井市における産業人材の育成を目指してまいります。

市ではこれまでも様々な連携協定を締結してまいりました。自治体が民間事業者等と連携協定を行うメリットの一つは、行政だけでは解決できない課題に取り組むことができることです。民間事業者の皆様と力を合わせ、引き続き魅力あるまちを創ってまいります。